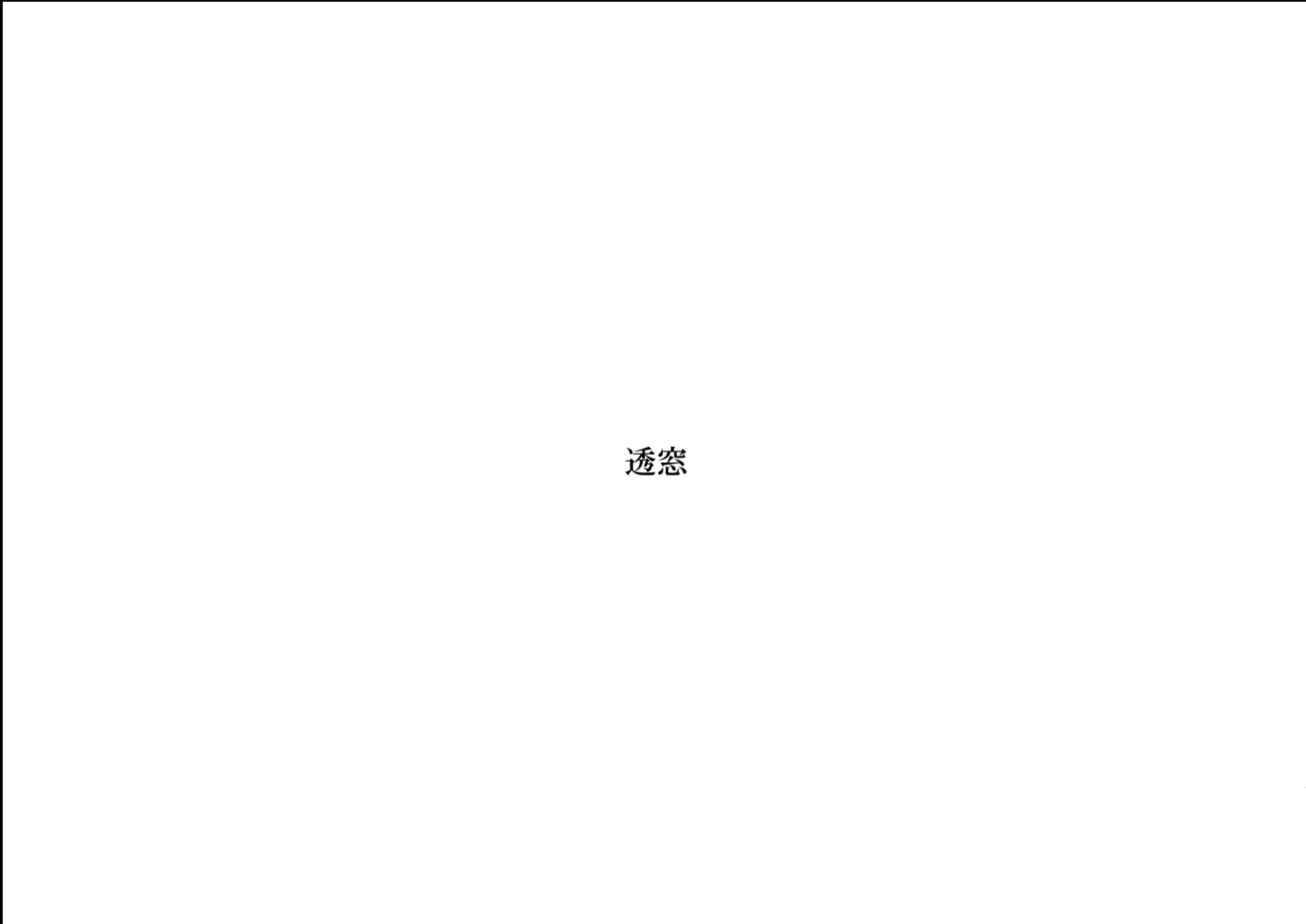
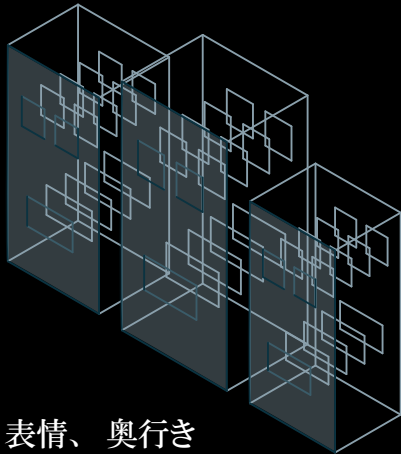


未完の風景

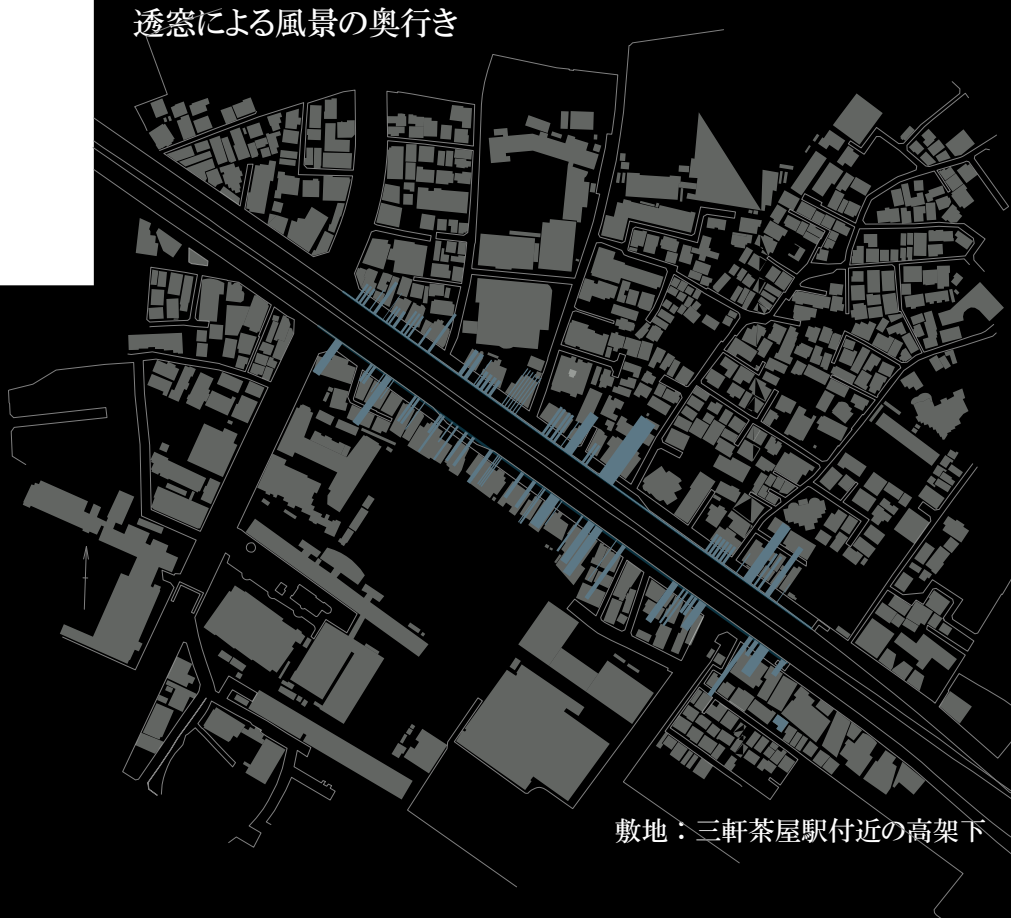
日本では古来から茶室や庭園などの未完の美学が論じられてきた。鑑賞される対象自体は未完成であり、それぞれが固有のフレームを通して想像することで完成するのである。そんな美的な趣を、完成形ばかり求め作り上げられた現代の都市の中の風景に持ち込み、価値の転換を行いたいと考えた。そこで私は高架下の風景に目を付けた。そこはインフラにより突如現れた高架がつくる暗い影の世界があり、面した建物たちは目を向けられることの少ない忘れかけられている風景になっている。茶室が外界の自然を窓により切り取り想像させるように、都市の中の窓というコンテキストをフレーミングし、未完の風景とした。都市の中での窓は街の表情であり、奥行きを感じる唯一無二の存在なのである。



透窓



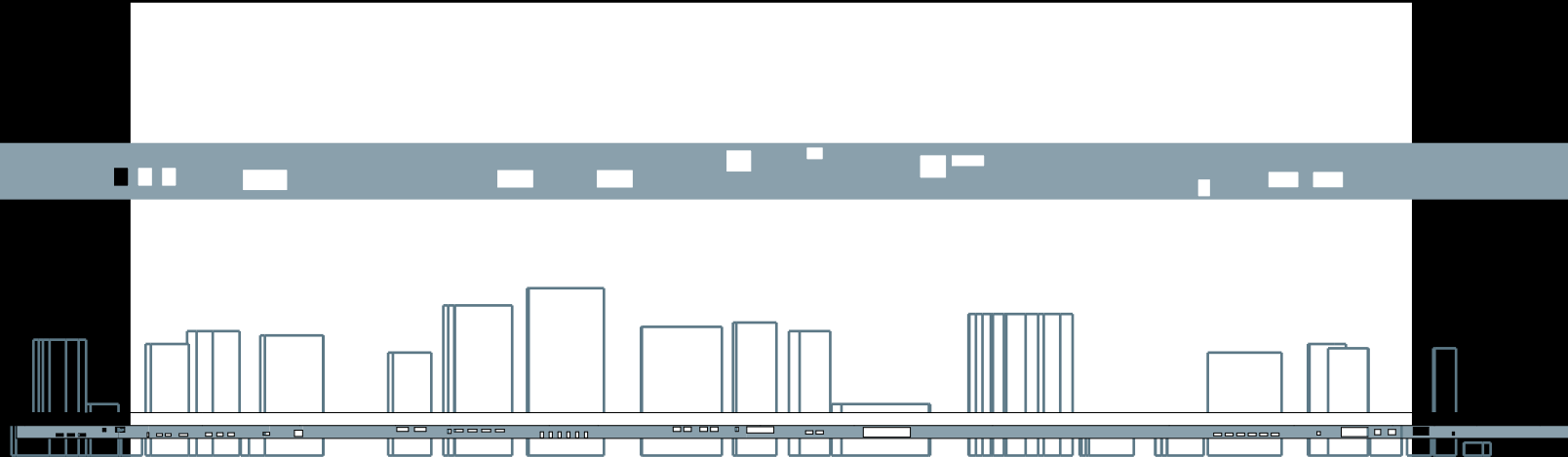
表情、奥行き



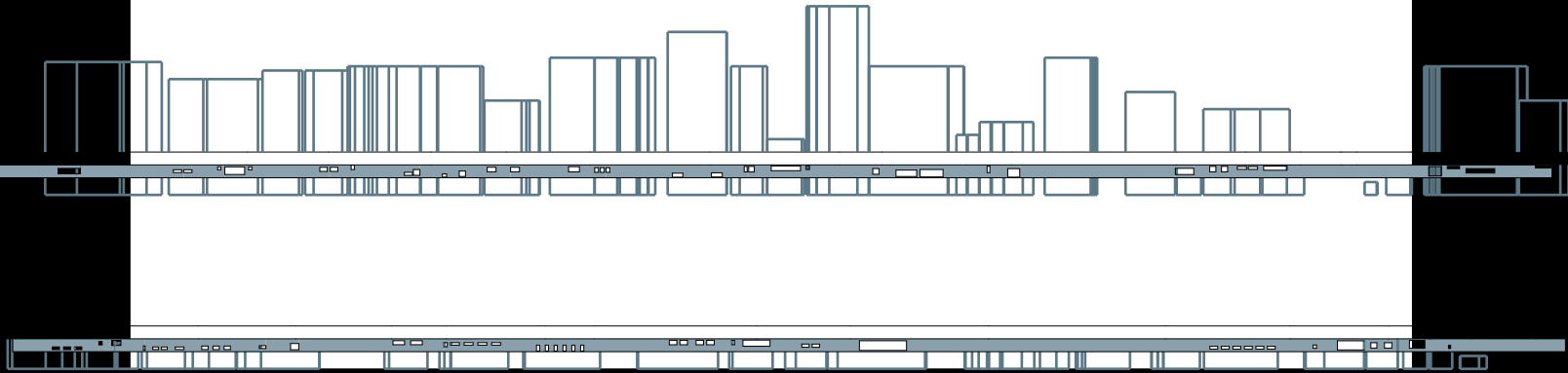
透窓による風景の奥行き

敷地：三軒茶屋駅付近の高架下

全体立面



高架下立面



想像立面

